



1日目 全体会

全体会では、様々な地域課題を解決する手段として、いろいろな職種のワーカーズが展開している事業について、6つの団体から報告がありました。

全国各地の地域課題を 自分たちの手で解決する！

WNIJ代表 宮野洋子さんの挨拶で始まった全体会。トップバッターは2013年3月に、東日本大震災被災地の大船渡市で立ち上げた「ワーカーズコレクティブ ぷろ3」より、支援者と被災住民のニーズをつなぐ「地域活性化のためのコーディネート事業」の報告がありました。

続いて、「(N)北海道子育て支援ワーカーズ」の岡田光子さんによる報告。地域のワーカーズが連携して法人を設立し、行政など関係機関との信頼関係が築かれてきていることや、保育資格の有無よりも子育て経験や親子に寄り添う姿勢を重視していることが報告されました。

3番目は神奈川で運送事業を展開する「企業組合ワコレ・キャリア」。生活クラブの野菜配送ワーカーズからスタートし、一時は150名の大所帯となるものの、システム変更でメンバーを大幅削減。新事業を開拓しながらシングルマザー・シングルファーザー・外国人等のメンバーと共に歩んでいます。また、引きこもり等の若者の就労訓練の場として横浜市から表彰された実績もあります。

4番目は阪神大震災をきっかけに、介護保険事業外の家事支援・介護支援等、たすけあい事業のシステムを大阪で作上げた「(N)ワーカーズ・コレクティブ はんど」です。



(N)ワーカーズ・コレクティブはんど
代表 村尾 恵美子さん

WNIJ*:ワーカーズ・コレクティブ・ネットワーク・日本の略

利用者やその家族に寄り添い、「はんどがあるから助かる」と言ってもらえる活動を目指しています。

5番目はグリーンコープ生活再生事業を担い、相談や貸付を行っている、福岡の「生活再生ワーカーズ・コレクティブ ともに」の報告です。設立前は生協の嘱託職員としての活動でしたが、自ら主体的に判断し、経験や知識を伝え合う必要性を感じ、ワーカーズを設立。法律専門家や他団体への橋渡しが必要な事案に対応するため、ファイナンシャルプランナーや産業カウンセラーの資格取得を目指しており、その先駆的な活動が注目されています。

最後はワーカーズではありませんが、ホームレス状態を生み出さない日本の社会構造をつくる取り組みとして、現役女子大学生が立ち上げた「(N)Homedoor (ホームドア)」。ホームレスの方たちが持つ技術を生かした自転車修理やレンタサイクル等の就労支援事業、社会的孤立をなくし自分らしく生活することを応援する生活支援事業、ホームレスへの偏見をなくすための啓発活動を展開しています。行動力・洞察力・企画力全てに溢れた、現代の若者のパワーを目の当たりにしました。



(N)ホームドア
川口 加奈さん

【報告:古野幸子(ふわっと)】



第11回ワーカーズ・コレクティブ

第11回目となるWNIJ全国会議が、2月8・9日に大阪市立大学で開催されました。テーマは、大阪弁で「いっちゃよ、やったらか!!働く人の協同組合えんちやう?」。全国から総勢450名、うち北海道からは42名が参加し、ワーカーズという働き方の広がりを実感することができました。今回はその内容の一部を紹介します。

2日目 分科会

2日目は、連合組織の在り方や法制度、学生による起業プラン等、多岐に渡る8つの分科会が行なわれ、各地の現状や課題、活動報告など現場の声を聞くことができました。

第4分科会

「安心して暮らし続けたい・自分たちで地域をデザイン」

配食を通して高齢者の生活リズムを整えることに奮闘する大阪のおばちゃんたちによる「キッチンよりあい」。高齢化を迎えた地域で、世代を問わないホームヘルプサービスやデイサービス事業を展開する、大阪の「泉ヶ丘ホープ」。移動が困難になっても、自分の行きたい所に自由に行けるようにと移動サービスを提供する、神奈川の「ワーカーズコレクティブどり〜む」。そして北海道からは、「たすけあいワーカーズそよ風」の内田ひとみさんが、2012年に5つの団体が連携して取り組んだサロン事業を、そよ風の活動と共に報告しました。最後に、大人の部活動をイメージしたコミュニティサロンの運営や、高齢者の居場所を行政と連携して運営する、長崎の「たすけあ

いワーカーズ kiki」の報告がありました。

意見交換では、安定した運営資金の捻出や人材の確保など、運営面における共通の課題が浮き彫りに。かつてワーカーズの研究者だった、泉ヶ丘ホープ代表理事の中村義哉さんによる、理念の具体化・新規入会者へワーカーズをどう伝えるか・世代交代のポイント・発信の仕方・自分の将来の可能性が描けるのかどうか等、課題解決に向けた説得力のあるコメントは、私たちにとって大きな収穫となりました。【報告:井端幸子(のほろ)】



第6分科会

「子育ての社会化にむけて ワーカーズ・コレクティブができること」

初めに内閣府子ども・子育て支援新制度施行準備室の方から詳しい説明がありました。消費増税増分を充てる社会保障費として、これまでは年金・保険・医療という、主に高齢者対象の分野に充当していたものを、子ども・子育てにも使っていくという方向性、そして具体的にどのような新しい制度になっていくのかを、詳しく聴きました。しかし、国の制度はあくまでも「絵に描いた餅」であり、「実際に食べられる餅」にしていくのは、各自治体と担

い手である私たちであるということです。

続いて「たんぼぼひろば(神奈川)」と「子育て支援ワーカーズ ぽけっとママ(北海道)」による、地元の市町村と連携した取り組みの実践報告、そしてWNIJ子育て支援事業拡充化チーム座長の吉田朋子さんによる、保育関連事業を立ち上げるために必要なポイント等をわかりやすくまとめた提案発表がありました。短い時間でしたが私たちの事業にとって大変参考になるものが多く、とても有意義でした。

【報告:山本靖子(ちいさなおうち)】

自主企画・ツアー

分科会後には、大阪市立大学教授の福原宏幸さんとの意見交換や、同業種のワーカーズが語り合う自主企画、ハンディのある方たちと共に事業を展開している現場を見学するツアーも行なわれました。

生協店舗(デポー)受託ワーカーズ

「たくさん聞いちゃおう!お店のこと、運営のこと」

東京・神奈川・千葉のデポーを受託するワーカーズが、運営方法や受託業務内容、独自の事業について語り合いました。デポーの新設には「拠点を作る」という意味もあり、店舗の半径1km以内にデポー会員を最低1,000人に拡大する必要があるということが印象的でした。【報告:橋村智子(まどり)】



懇親会

大阪市立大学の学生食堂で開かれた懇親会では、北海道の事業紹介を紙芝居形式で元気に披露しました。



学生食堂の協力で、ボリューム満点の料理が並べられました